

本人
登場私らしく
仲間とともに

No.165

認知症やけど、
私は私やん!てらの きよ み
寺野 清美さん

65歳・大分県支部

昨年8月に登場。グループホーム「花・花」のパート
 介助員として働き始めました。事業所は「社会とのつな
 がりを持ち続けられるように」と願って障害者雇用しま
 した。今では、職員全員が寺野さんの言葉に耳を傾け、
 笑顔で過ごせるような環境づくりに努めているそうで
 す。寺野さんの「パートⅡ」を管理者の川浪和恵さんが
 まとめていただきました。(編集委員 松本 律子)

出勤日の戸惑い

グループホーム「花・花」でパートの介助員と
 して働き始めて、手にした勤務表。時間は決まっ
 ているけれど、出勤日は土・日関係なくバラバラ
 の週4日。わたし、今日は休みで良かったんか
 ね? カレンダー見てもわからん。管理者に電話し
 てそのことを伝えたら、次の週から、出勤日を曜
 日固定に変更してくれた。それからは心配で眠れ
 なくなることもなく、今は友だちからの誘いにも、
 間違わずに約束ができるようになった。

「花・花」の職員はみんな優しい。でもね…

昼ごはんを作るのが私の仕事。職員と一緒に今
 日のメニューと、何を買うかを決めて、専用メモ
 に書いて、隣のスーパーに出かける。職員が「メ



社員旅行で大阪へ、グリコ!!
 (右から2人目が寺野さん)

モ持った? お財布持
 った?」と声をかけ
 てくれる。忘れて出
 かけたことが何回も
 あるさね。

調理をしている
 と、途中で何を作っ
 てるのかわからんく
 なる。メモがあるか
 ら見ればいいっちゃ
 けど、忘れるっちゃ

んね。

そんな時は職員が教
 えてくれるんやけど、
 わからなくなったこと
 で自信を失くす。ちゃ
 んと教えてほしいと思
 う反面、忘れてしまっ
 た事実を知るとやっぱ
 り傷つく。こうやっ
 て、この病気はどんど
 ん進んでいくかなって悲しくなる。



笑ってるけど内心ドキドキ

認知症になってからわかったこと

認知症と診断されてから、わかったことがひと
 つある。私ね、人の心が『見える』ようになった
 んよ。昔は、人からどう思われてるか、とか、あ
 んまり考えなかったんやけど、認知症になってか
 らは、この人がうわべだけなのか、ちゃんと向き
 合ってくれているのかが、よ〜くわかるようにな
 った。

「花・花」の職員さんは偉いな〜って思う。根
 気よくお世話してるな〜って感心する。でも何で
 も手を出す入居者さんに「いらんことしよる」っ
 て職員が困ってるけど、その人は自分でしたいっ
 ちゃんね。誰かの役に立ちたいんよ。それは、私も
 そうやからよ〜くわかる。同じ病気の私だからね。

情報
コーナー

本人交流の場

(詳細は各支部まで)

宮城●8月1日・15日(木)10:30~15:00/
 翼のつどい→泉区南光台市民センター
 山形●8月21日(木)13:30~15:30/「な
 のはな」→さくらんぼカフェ
 埼玉●8月24日(日)11:00~14:30/若年

のつどい・川越→ウエスタ川越

●8月28日(木)11:00~14:30/若年のつ
 どい・大宮(北区)→地域包括支援セン
 ター 諏訪の苑

新潟●8月10日(土)13:30~16:00/若年
 認知症のつどい→新潟市総合福祉会館

大阪●8月9日(金)13:00~15:00/つく
 しの会→あべのベルタサロン

鳥取●8月24日(日)11:00~15:00/東部

にっこりの会→コモン吉方温泉

広島●8月3日(日)11:00~15:30/陽溜
 まりの会東部→福山すこやかセンター

●8月10日(土)11:00~15:30/陽溜まり
 の会広島→広島中区地域福祉センター

福岡●8月3日(日)10:00~12:30/あま
 やどりの会→福岡市市民福祉プラザ

「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書（2019年版）」

国の新たな「認知症施策推進大綱」が公表されました。新オレンジプランと対比して見ると、新たな項目が加わるなど評価すべき点もあります。しかし、介護者支援の後退が懸念されること、予防が強調されていることなど、見直すべき点も少なくありません。

また、「年金で足りない老後資金2千万円は投資で補てんを」との趣旨の、私たちの生活感覚とはかけ離れた、国の責任放棄とも受け取れる報告書が公表されました。国が責任を持って国民の生活を保障する道を示すよう強く求めていく必要があります。

国は、自助を強いる前に、責任を持って国民の生活を保障すべき

今月は、介護保険の個々のサービスと制度・諸施策についての要望の解説です。

Ⅲ. 介護保険制度をはじめとする制度・諸施策についての要望（3）

1. 介護保険制度について

3) 個々の介護サービス等について

（6）グループホームについて

- ①介護保険施設と同等に補足給付の対象とすること

家族



国民年金だけでは費用が払えない。生活保護を受けることは相談しづらい。

利用したくても評判の良い施設は空きがない。

*利用者の負担を少しでも減らせるよう、せめて特別養護老人ホームなどと同じように補足給付の対象とするよう求めています。

- ②入居者の福祉用具貸与・購入に介護保険での算定を認めること

家族



一時帰宅した時のための福祉用具貸与・購入に補助が欲しい。

*グループホームは「居宅」と位置付けられているのですから、福祉用具貸与・購入を保険対象外とする理由はないはずです。

（7）特別養護老人ホームについて

- ①特別養護老人ホームの整備を公的責任において促進すること

家族



私も夫も年金額は1ヵ月10万円。入れる施設は特養の多床室しかありません。

*1ヵ月10万円以下の国民年金や少ない年金の人でも入れる特養の整備を国の責任において進めるべきです。

- ②入居対象者を要介護3以上に限定しないこと

家族



在宅介護に限界を感じているが、要介護2で申し込みができない。

*入居を要介護3以上に制限しても、要介護2までの人のサービスの制限が続けば、重度化を早めてしまい、経費節減にはつながらずに、利用者・家族を苦しめるだけです。

<③及び（8）は省略>

2. 新オレンジプラン等に基づく諸施策について

次からの項目は、これまでの新オレンジプランから、新しい「認知症施策推進大綱」に引き継がれることになる項目です。「大綱」は確定しましたが、要望が組み入れられるよう引き続き取り組んでいく必要があります。

1) 地域包括支援センターの業務から介護保険給付実務をはずすこと

家族



早期認知症の診断を受け、地域包括支援センターに行って、サービス利用はまだ必要ないが、今後のことを相談したいと言ったら、必要にな

ったらまた来るようにと言われてしまった。

地域包括支援センターの戸別訪問の機会を増やして欲しい。

＊地域包括支援センターのスタッフが、初期の認知症の人の相談にきめ細かく応じられ、訪問の機会も増やせるよう、要支援の人のための介護保険の実務を、役割から外すよう訴えています。

<2>は省略>

3) 予防の取り組みにおいては、認知症がその人の責めに帰する病気であるかの印象を与える情報提供を行わないこと

＊「大綱案」で示された「数値目標」のように、認知症の人の尊厳を傷つけるような「予防」の取り組みがなされないよう、今後も厳しく見守ってゆく必要があります。

4) 新オレンジプランのガイドラインの「認知症施策の企画・立案や評価への認知症の人と家族の参画」する取り組みを徹底すること

＊認知症の人や家族の参画はまだまだ不十分で

す。形式的に意見を求めるだけでなく、国が率先して草案の段階から話し合いへの参加を認めるべきです。都道府県・市町村にも公募ではなく、参加を必須とするよう徹底すべきです。

5) 家族が心身とも健康で介護を継続することができるよう、新オレンジプランの家族支援策として位置付けられている「認知症カフェ」の普及だけにとどまらない、それぞれの介護の実態に即した家族支援策を法制化すること

＊「大綱」に、明記された「介護支援プラン」にサービスの裏付けをもたせること、既に行われている「つどい」などの「ピア活動」を社会資源として評価すること、さらに財政的に支援することなどを求めるものです。

6) 認知症の研修を受けた医師について、認知症の人や家族が簡単に知ることができるようにすること

家族



インターネットで調べても、なかなか必要な情報にたどり着けない。

医師



研修を受けても、公表されて多くの患者さんに来られた時に対応できるかが心配。

＊認知症の研修を受けた医師（認知症かかりつけ医、サポート医など）のリストを一覧表にして用意しておき、本人、家族が目にし、窓口で手に出来るようにしておいてほしいと思います。

●ご意見、ご質問、お困りのことなどをお寄せください。

「家族の会」介護保険・社会保障専門委員会宛
FAX 075-811-8188 Eメール office@alzheim.or.jp

会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、
「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。



お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル
仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheim.or.jp

悩んでいるご家族に良い知恵があればお寄せください。

ぼ〜れぼ〜れ5月号「怪我の後、
時を経ての発症」の疑問にお答えします

「家族の会」副代表理事
神奈川・川崎幸クリニック院長 杉山孝博

この方のご主人は若いころ、タンクの爆発で吹き飛ばされ入院治療を受けましたが、40歳代で職場に復帰し、60歳まで普通に仕事をしていました。60歳ごろから認知症の症状が急速に進行して、70歳で亡くなられたそうです。「アメリカンフットボールの選手が後年になって認知症になる」という記事を読んで、ご主人もそのケースに当たるのではないかと考えられました。

ボクサーやフットボール選手などで、何度も頭部に損傷を受けたことが原因になって、後年に気分や行動の変化、運動障害や認知症の症状を起こす病気を、現在では慢性外傷性脳症と呼んでいます。運動選手だけでなく、爆発にさらされた兵士にも発生することが知られています。損傷を受けてから長く経過して（60歳代になってから）発症することもあります。MRIなどの検査を受けても特徴的な変化はみつかりません。診断は、頭部外傷の既往、典型的な症状、他の原因が見当たらないことなどにより行われます。ご主人の場合、爆発にさらされた兵士のケースに類似しているように思います。しかし、同じような脳損傷を受けても発症しない人も多いので、確言することは難しいのですが…。

ぼ〜れぼ〜れ3月号
「忙中感あり」を読んで

医療費が大変な負担

●宮城県 Aさん 80歳代 男性

妻は77歳。4～5年前より認知症となり、絶対病院に行かないため困っていたところ、「家族の会」の人に訪問医を紹介いただき、要支援1の認定も受けることができ、自宅で治療ができるようになりました。薬は飲まないで、進行は早く、卵焼きと酒を一日2～3合のみで…。そのうち、誤嚥性肺炎となり入院。それまでは歩いておったのですが、2週間の入院後には寝たきりの状態。流動食、オムツ生活となって約1年経過。ヘルパーさん、看護師、訪問医、訪問入浴、そして何より息子の協力で助けられています。

一番心配なのは病気になることです。我々低所得者には、医療費が大変な負担となります。「忙中感あり」（ぼ〜れぼ〜れ3月号）で京都支部日より1月号に要介護5で身体障害者手帳が交付された方の紹介がありました。妻は要介護5で寝たきりの状態ですが、内科の医師は整形外科に聞いてみると言い、看護師もあやふや、ケアマネさんもしっかりとせず、区役所では医師の診断書が必要と1枚の用紙を差し出すのみで…。都道府県での差があるのでしょうか？

全国の認知症介護されている人にとって、医療費は大変な負担で死活問題だと思います。

宮城県支部では、Aさんからのお便りが届いてすぐに、区役所などに対応の改善を求め、Aさんに必要な情報を伝えました。Aさんは申請を行い、無事、身体障害者手帳が交付されたそうです。

（会報編集委員会）





ヘトヘトに疲れきるまで頑張った

●福島県 Bさん 60歳代 女性

50歳代の夫は、2年前に若年性認知症と診断されました。頑張って仕事を続けていましたが、毎日ヘトヘトに疲れ切った夫をみていて、壊れては困ると思い、長期休暇を取っています。自宅での生活の仕方、社会との接点の持ち方など、日々考えています。

大切な夫とは、少しでも穏やかに暮らせたらと思っています。

納得のいく最期に…

●宮城県 Cさん 60歳代 女性

私は、約3年半前に母の介護を終えました。この冬、叔父が最近入居した施設に訪問しようとして感じたことを述べます。

叔父は90歳代の認知症中期なのですが、お正月前から肺炎などを繰り返していて、「年を越せるかどうかかわからない」と聞いていたので、顔を合わせられるうちに会いに行こうかと思い、叔父の奥さんに電話しました。

施設ではインフルエンザの流行期には家族も一切立ち入り禁止で、洗濯物も玄関の外で受け渡すという状態でした。確かに、病氣予防の観点からいえば、領けるのですが、生命の危機が迫っているのだから、家族が声をかけて帰ることくらいは許されても良いのではないかなと疑問を持ちました。

もっと言えば、本人や家族がどういう最期を迎えたいのか、死に目に会えなくても施設に任せるのか、それとも、死に際には駆けつけたいのか、家族が本人に会えなくても、その状態を施設側の医療者と随時確認して、納得のいく最後にするなど、改善する余地はあると考えます。

大型連休は弱者のことも考えて

●鹿児島県 Dさん 80歳代 女性

私どもは老々介護中。私が圧迫骨折で夫の介護が困難になってしまい、夫はお世話になっているホームのショートステイに泊まっていました。夫は大型連休の初日に発熱、肺炎の疑いで、急患を受け入れてくれる病院を探しましたが、どこも一杯で、市外の病院に救急車で行って、やっと入院できました。骨折で養生中の私は、夕方になってやっとの思いで家に帰り着きました。

ところが、私の叔母（104歳）がデイサービスから帰って、部屋で転んで骨折していて、病院をハシゴして数件目の病院に入院させてもらったところでした。

病院も老人ホームも休みでスタッフが足りない、レントゲン技師はいるのに、院長がないのでダメだとか…、居宅介護支援事業所、福祉用具の事業所も連休だったわけだけど、弱者のことを考えてお休みをしていただきたいと思います。

母と楽しいことをしながら過ごしたい

●東京都 Eさん 40歳代 女性

母方の祖母が認知症だったため、自分もなるのではと恐れていた母は、現実となった今、まだ受け入れることができずに苦しんでいます。ただ、少しずつ進行して、いろいろなことができなくなるのを悲しむよりも、今の状況を感謝しつつ、何かできること、楽しいことをしながら、一緒に過ごしたいと思っています。しかし現実には、私もなかなか優しくすることができなかったり、ケンカをしてしまったりするので、他の方にいろいろと教えていただきたいなと思って、サポートグループを探していて「家族の会」を見つけました。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。